

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000187		
法人名	特定非営利活動法人楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀市川副町鹿江869-1		
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和元年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切にしています。できる限り自由に、本人のペースで生活をして頂きたいと考えています。画一的な支援ではなく、個人、個人の違いを理解し、利用者也職員も共に楽しく暮らすグループホームをめざしています。ゆっくり散歩をします、体操をします、テレビを見ます、ウッドデッキに出てみます、部屋で昼寝をします…それぞれが自由です。自分の家のように暮らしてもらいたい。遠慮せず、その人にとってここが居心地のよい場所であるようにと願い、努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和元年9月に移転し、元々は、障害者施設として使用していた建物を改築したグループホームである。部屋は明るく広く、二重窓の為、防音効果もある。リビングには、カラオケ機器があり、入居者の楽しみとなっている。今後、地域の方を呼んでカラオケ大会を開催したいという入居者の希望がある。リビングから続く先には、ウッドデッキが在り、自由にくつろげる場となっている。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」の理念を掲げ、管理者のリーダーシップの下、相談しやすく温かい雰囲気、入居者一人ひとりの個別支援を大切にしているホームである。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」の運営理念を掲げ、利用者も職員も共に暮らし、生活の中に楽しみを見つけていこう。両者共に心豊かに過ごしていこう。と、その実践に努めている	理念を事務室に掲げ、日常業務の中で実践できるように心がけている。夕食後のカラオケは、入居者も職員も理念のように「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」ことができている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者自身の参加は高齢でもあり、身体的にも難しい状況である。散歩途中に挨拶や声かけは積極的にしている。移転して来たばかりであり、地域の行事に利用者が参加できるものがあるのか情報収集中である	9月に移転したばかりであるが、買い物時に交流し、地域の情報を得ている。今後、カラオケ大会を開催し、地域の人に足を運んで貰い、地域との交流を密にしていきたいという思いがある。	移転して間もない為、地域との交流はこれからである。今後、地域の人を呼んで、カラオケ大会を開きたい要望があるので、それを機会に、入居者が地域と繋がりが暮らしながら暮らせるよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が参加する地域の掃除等の中で、認知症のこと、グループホームとはどんなものか等の話をしたり、またいつでも寄って下さいとの声かけ、運営推進会議への案内をしている。「園だより」の回覧をお願いしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや近隣、地域役員、利用者の家族の方々に参加いただき、サービスの内容や外出、行事等についての報告、また意見交換の場としている。様々な声を聞き、サービスの向上に活かすよう努めている	行政、近隣、入居者、家族が出席し、2ヶ月に1回開催している。事業報告や情報交換等が行われている。出席できなかった家族には、会報を配布し情報共有を行っている。職員には議事録を回覧し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川副町支所にて毎月開催されている川副ネットワークに参加し、情報交換及び研修等により、協力関係を築くよう取り組んでいる	川副ネットワークに参加し、連携を密にして、良好な関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルの作成や各研修により、身体拘束に関する知識の習得に努めており、禁止となる具体的な行為を理解している。玄関や窓は開放している。夜間のみ玄関の施錠をしている。	日中の玄関の施錠はしていない。研修に参加したり、言葉による制限についても職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その人らしい生活を支援するという介護の目的を、職員一人ひとりが理解している。利用者の尊厳を守ることをしっかりと意識し、無意識のうちに利用者を傷つけることのないよう注意と努力をしている。研修等で学ぶ機会をもっている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人と密に連絡を取り合い、利用者にとって最善と思われる支援について考えあっている。それぞれの立場や義務を知り、情報の共有にも努めている。制度についての学びに関しては、更に多くの場が必要であろうと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、その内容を十分に説明し納得いただいている。改定の際においては、文書にて提示説明し、疑問や質問には応えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が遠慮せず、何でも言える環境でありたいと願っている。家族に対しても同じである。頂いた意見、要望はできる限り反映させていこうと努めている。ケアプラン説明の際や、面会に来られた際もその機会と捉えている	日頃の会話の中で、入居者の意見、要望を把握している。家族に事情がある入居者が多く、面会は少ないが、管理者が関係者に生活状況を伝え、頂いた意見や要望は、職員間でも話し合い、運営への反映に努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で、疑問があったり、意見があれば、いつでも言える、聞ける状況である。ホーム内だけでなく、全体(法人)としての運営や提案に関しては、毎月開催される全体会議にて発表、検討をお願いしている	普段の業務の中で、職員の意見を聞き、できる限り反映できるように努めている。内容によっては難しいこともあるが、小さいことから実現できるよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の向上に努めようとの意思はあるが、成果としては不十分だと感じられる。一層の取り組みを目指している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に関しては、その機会の確保に努めている。ただ職員一人ひとりに研修の機会を提示しているものの、勤務状況(職員が不足)により研修参加できないこともある。職員の確保や勤務体系の整備も必要である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワークの勉強会や講習会に参加し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に生かせるよう取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴することから始め、ゆっくりと本人のペースに合わせた対応を心がけている信頼関係構築の上では、共感と受容の大切なことを理解し、その関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすい雰囲気や環境作りに心がけており、要望等にはできる限り対応できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人がどんな生活を望んでいるのか、又その生活を実現させるためには何が必要なのかを、本人・家族と共に考え、必要な支援に結びつけるよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人と言った関係ではなく、共に生活をする対等な人間としての関係を築いている。「お互い様」の関係を築くことが、その人が遠慮なく物を言い、我儘も言え、我慢せず自分を出せる場所となる。そう考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況、状態に応じて家族との話し合いの機会を持ち、一緒に考えていくよう努力している。職員の出来ること、家族にしかできないこと、家族の立場を尊重しながら、お互いに協力をしていきたいと考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類の方等が気軽に尋ねて来ていただけるよう、挨拶や声かけ、またその環境、雰囲気作りに努めている	友人や家族が来所している。なかなか面会に出来ない家族へは、近況を報告する等、関係が途切れない様支援されている。馴染みの所へ買い物に行ったり、入居者が行きたい場所へ行く等馴染みの関係が途切れない様に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが気を使わず、自由に暮らしていくことを大切に考えている。一人ひとりが重要な人であるとの認識が孤立を防ぎ、支え合う関係になると考えその様な関係作りの支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要時はいつでも相談にのったり、(支援できることであれば)支援できる状態であり、こちらから関係を断ち切ることはない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの価値観、考え方の違いを認め、その人が自分らしく過ごせる様、寄り添い、支援していこうと努めている。あくまでも本人が主体であることを忘れることのない様、心している	一人ひとりの希望は、日ごろの会話の中で把握に努め実践に反映している。会話が困難な方は、表情や反応を見ながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中からの読み取りや、本人・家族との会話を通して、その人のこれまでの暮らしや習慣等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で、一人ひとりの過ごし方を見守り、コミュニケーションをとりながら、その人の「今」の状態や変化、有する力を見逃さないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月又は利用者の状態の変化等により必要に応じてケア会議を行い、本人への説明を行い、共に目標に向かっていけるよう努めている。モニタリングは情報を共有し、職員全員で取り組み、次の介護計画に活かしている	介護計画は3ヶ月毎に見直し、状況に応じて再アセスメントを行っている。本人や家族の意向を反映し、日頃の状況を職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活での様子や気づきは個別に記録している。又口頭や申し送り等にも職員間での情報共有を図っており、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や状態に対応しながら利用者にとって今何が必要なのか、何を必要としているのかを見極め、柔軟に支援できるように心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の手続き等においても、民生委員の方や市役所の担当者との協力のもとで、支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理のため月2回の訪問診療のほか、本人や家族の希望による病院への受診、歯の治療等もその状況に応じて適宜対応している。気になることや、心配なことがあればかかりつけ医と連絡、相談できる態勢である	かかりつけ医との継続支援が来ている。家族の付き添いが出来ない方は、かかりつけ医を変更し、職員が付き添い受診している。また、協力医との連絡を密にとりながら、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の様子や体調、その変化等看護師に伝え、相談している。情報を共有し、個々の利用者の状態を把握することに努め、適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には病院とホーム、お互いに本人の状態や状況の情報を共有している。退院後の病院の指示が適切でないと考えられる場合においては、相談検討の場をもうけ、本人にとって最良と思われる支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りの説明を行っている。重度化したり、終末期と意識できるような場合には、家族・本人の意思の確認を再度行い、医師、看護師、介護職との連携をとり、チームで支援に取り組んでいる	看取りは行っている。重度化や終末期には、24時間体制でその都度、家族の意向を確認しながら、医師や地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応出来るようマニュアルや緊急連絡網を整備しているが、実際の応急手当や初期対応の十分な実践力を身につけるためには、より多くの訓練が必要であると思われる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川副ネットワークによる防災マニュアルに沿った訓練を実施している。この地域においての情報がまだ不十分であり地域との協力体制の構築や、災害対策は現在未熟である。それらを築いていく取り組みを始めているところである	移転して初めての夜間想定火災訓練を1月に予定している。夜勤専門職員も参加しての訓練はこれからである。	地域の協力依頼と夜勤専門職員が参加しやすい日時を設定し、周知に向けての取り組みや年2回の定期的な訓練の開催に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を一人の人として尊重し、誇りやプライバシー、羞恥心等に十分配慮するよう努めている。自分の発する言葉や動作をしっかり「意識」することが大事であり、相手の立場に立った支援を心がけている。	プライバシーに関わる事は本人の近くで話したり、言葉遣いに配慮するなど、自尊心や羞恥心に配慮した対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮をせずに、自由に自分の思いを表せるよう、そのためにはどんな環境が必要か、どんな働きかけが必要かを、個々の職員が考え、支援していくように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの主体は利用者本人であることを、職員はしっかりと理解し、ケアする側を優先することのないよう日頃より心がけている。本人の希望、ペースに添いながら、個々の違いを大切に考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな色合いや、サイズ、似合う衣類等、自分で選べる方には好みの物を選んでもらえるよう支援している。本人が買い物に行ける状況であれば、一緒に出かけて行く		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「お互いが助け合っている」という意識を持つことを目指している。利用者も職員もそれぞれが力を持つことを知り、同じ生活者として楽しみを分かち合いたい。	入居者の好みや希望を聞いて献立を立て、出来る範囲で、職員と一緒に準備や片付けをしている。また、嗜好品の制限もなく食事が楽しみとなる支援が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や残量を確認し、その日の体調に配慮しながら支援している。水分に関しては、自由に好きな時飲める状況である(水分制限ある方は除く)。熱い、冷たいは本人の好みに任せている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声かけ、誘導支援を行っている。必要な方には口腔ケアや治療等歯科の訪問診療を受けてもらっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排泄の自立はその人の尊厳に深く関わる部分なので、職員の倫理観又羞恥心への配慮等の向上も目指し支援しているトイレでの排泄を第一に考えている	夜間は、紙パンツやパット等、一人ひとりに合わせた対応をし、日中は、オムツ使用はせず、自立に向けた排泄支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や冷たい水を飲むことで、胃腸に刺激を与えたり、歩くこと、動くことで蠕動運動を促がしたり、出来るだけ薬に頼らない工夫をしている。現在便秘薬使用の方はいない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望とペースに合わせている。体の洗い方も、湯温もそれぞれ・個々に添った支援を心がけている。入浴日以外の日であっても本人の状況、状態によっては希望に添うようにしている	入浴は、原則週3回実施しているが、随時、本人の希望や状況に合わせた個別対応が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で自分の体調が分かる、セルフケアの大切さを重視している。本人の感じていることを慮ることができ、その環境を提供できるよう支援する努力をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬準備の段階で、処方箋に目を通したり、薬の情報の確認をしている。服薬による状態の変化や用量等については見逃すことのないよう観察し、本人に本当に必要な薬なのか、等医師への確認や意見を伝え、出来る限り薬を減らす方向である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の個々の生活を知り、何が好きで、何に興味があったのか・・・此処にいても、それまでしていたことがあれば、出来る限り続けていけるよう支援をしている。嗜好品等の制限はしない(飲酒・喫煙等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により時間が許せば、その希望に添うようにしている。利用者も職員も共に、色んな場所に出かけ楽しむ事を目標にしている。外出や買い物、外食等適宜支援できるよう努力している	散歩は日課として、買い物は定期的に出かけている。入居者の希望に応じ外食やドライブ等、楽しみとなるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお金を所持したいとの希望がある場合においては、それは可能であるが、日用品購入金額以上の万単位の場合は検討し、不可能な場合もある。本人の管理能力により判断しているため、本人にとっては不本意なこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、それに添う支援をするのだが、家族よりの拒否があったりと困難な場合も少なくない。本人の望みや希望を出来る限り叶えたいと、可能な限りの努力をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然にと考えている。低下はしていても、本人の持つ機能を少しでも活用するために、過剰な暖房や冷房は避け、自然光や自然を感じて生活をしてもらいたいと思っている。中庭には気持ちよく陽が降り注いでいる	リビングは、広くて明るい。掃除が行き届いていて臭いもない。ウッドデッキには、長椅子が置いてあり、ゆっくり過ごされている。自然の中で過ごせるよう、温度や湿度に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中では、それぞれに自由に、好きに過ごせるように配慮している。一人で部屋に居たい時もあれば、皆と話したい時もある。本人次第の暮らし方の提供をと思っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、使い慣れた物を持って来て頂いていいことを伝えているが、家族や身寄りの無い方も多く、必要な物等は、本人と相談しながら購入し、少しでも心地よく過ごせるようにと取り組んでいる	持ち込み制限はなく、仏壇など自由に持ち込み、必要なものは、職員と一緒に買い揃えている。家具やベット等、入居者の身体状況に合わせて、居心地よく過ごせるよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、テーブルやソファの位置等を配慮し、出来るだけ安全に安心して移動ができるよう、自立を支援できるよう工夫している		